

## 平成 20 年度のリコール検討会の進め方について

## 平成 19 年度

## 【検討課題を4つに整理】

- リコールに対する正しい理解の普及
- 自動車の不具合に係るユーザーへの情報提供の充実と不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保
- リコールに至る自動車の不具合の発生原因の分析と削減方策
- 使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全のためにメーカーが担うべき役割の明確化

主に課題 と について議論。

改善の方向性として

- 自動車の不具合が原因と疑われる事故や火災としてメーカーが国土交通省に報告した情報について公表すべきこと
  - ユーザーの不具合に対する関心を高め適切な対応につながるような具体的情報などの内容を検討し、また、より確実にユーザーへ情報を伝える方策について検討すべきこと
- 等を取りまとめた。

## 平成 20 年度

主に課題 と について議論。

## 課題

- ・ リコール増加の原因の分析
- ・ リコールに至る不具合の削減方策の検討

## 課題

使用過程車の自動車の安全の確保及び環境保全のためのメーカーの役割を明確化することでリコールのあるべき姿を検討。

WGを開催して  
議論

検討状況を報告

国土交通省、メーカー等  
で取りまとめを踏まえて改善の具体化  
に向けて検討

## 平成 20 年度リコール検討会のスケジュール(案)

課題 2 : 自動車の不具合に係るユーザーへの情報提供の充実と不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保

課題 3 : リコールに至る自動車の不具合の発生原因の分析と削減方策

課題 4 : 使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全のためにメーカーが担うべき役割の明確化

	第 5 回検討会	第 6 回検討会	第 7 回検討会
開催時期	6 月	1 1 月	2 月 ~ 3 月
課題 2		検討状況を報告 とりまとめの事務局案を提示	
課題 3	WG の設立の承認  【WG での作業】 ・ 過去のリコール情報の分析 ・ メーカーへの聞き取り調査 ・ リコール増加の原因分析	WG での検討事項の報告  【WG での作業】 ・ リコールに至る不具合の発生 を防止するための方策を検討	WG でのとりまとめ案の報告
課題 4	委員からのプレゼン メーカー団体等からのプレゼン 等	委員からのプレゼン とりまとめの事務局案を提示 等	
その他	平成 19 年度リコール分析結果の説明 ユーザーアンケート調査の質問内容の説明	アンケート結果の報告	平成 20 年度とりまとめ

## 今後のリコール検討会の進め方について

### 課題1「リコールに対する正しい理解の普及」

課題1については、課題2から4を検討することによりリコールのあるべき姿を明らかとし、それを踏まえた正しい理解の普及を検討することとする。

### 課題2「自動車の不具合に係るユーザーへの情報提供の充実と不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保」

事故情報の公表等、平成19年度に検討した方針を具体化するとともに、不具合発生からリコールに至る過程の透明性を確保することについて検討する。

#### 事故情報及び不具合情報の統計分析結果の公表

平成19年度の取りまとめに基づき、事故情報及び不具合情報の統計分析結果について、事務局で公表に向けた作業を行う。

#### メーカー等からユーザーへの情報提供

平成19年度のリコール検討会での議論を踏まえ、事務局と自動車メーカー等で具体的な改善方策を検討。検討会に適宜検討状況を報告する。

#### 不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保

適切なリコール制度を運用していくために必要な透明性の確保を図る上で、どのような課題があるのか整理していく。

### 課題3「リコールに至る自動車の不具合の発生原因の分析と削減方策」

WGを開催し、以下の項目を中心にして分析及び検討を行う。

#### リコールの増加原因等についての分析

- ア) 平成19年度にリコール検討会の委員から指摘のあったリコールの増加理由を踏まえ、リコール件数が増えているメーカー等を対象にヒアリングを行うことにより、リコール件数が増加している原因について推定する。
- イ) 過去のリコールの発生状況や具体事例を分析し、ア)で推定した原因について検証する。

#### リコールに至るような不具合の削減方策の検討

- ・ 分析したリコールの増加原因を踏まえて、リコールに至るような不具合発生を削減する方策を検討。

WGのメンバーについては、学識経験者(2、3名)の他、メーカー関連業界団体の参加を求める。

リコール検討会では、議論の方針、アウトプット等を適宜報告し、意見を聴取する。

課題4「使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全のためにメーカーが担うべき役割の明確化」

使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全において、メーカーによるリコールとユーザーの保守管理の両方が重要であることを踏まえた上で、メーカーの役割を明確化することでリコールのあるべき姿を検討する。

また、それにより国等の役割も明らかにしていく。

(検討すべき内容のたたき台)

使用過程の自動車について、ユーザーが、正しく使用し、適切に保守管理を行っていたにも関わらず不具合が生じた場合には、メーカーが何らかの対応を取ることが期待されるが、次の3点に関してメーカーの役割を明確にすることが必要と考えられる。

想定外の使用について

メーカーが設計時に想定した耐用年数を超えて使用した場合の経年劣化による不具合等、メーカーが想定していなかったような使用がなされた場合の不具合については、メーカーが対応すべきかどうかについて検討する。

ユーザーによる不適切な保守管理等に起因する特定型式での不具合等

事故につながるような不具合が特定の型式において発生しており、その原因が少なからずのユーザーが正しい使用方法や保守管理を行っていないことである場合又は原因究明に時間がかかる場合に、メーカーは何をすべきかについて検討する。

メーカーが担うべき役割

不具合には事故に直接つながるような危険なものと、事故に至る危険性は低いものがあり、危険に応じてその不具合への対応は異なってくると考えられる。このため、危険に応じたメーカーの役割を明らかにする。